



TITLE:

馬蹄腎に合併した腎細胞癌の1例

AUTHOR(S):

高木, 康治; 金井, 茂

CITATION:

高木, 康治 ...[et al]. 馬蹄腎に合併した腎細胞癌の1例. 泌尿器科紀要
1992, 38(6): 697-698

ISSUE DATE:

1992-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/117574>

RIGHT:

馬蹄腎に合併した腎細胞癌の1例

掛川市立総合病院泌尿器科 (医長 金井 茂)

高木 康治, 金井 茂

A CASE OF RENAL CELL CARCINOMA IN
A HORSESHOE KIDNEY

Yasuharu Takagi and Shigeru Kanai

From the Department of Urology, Kakegawa General Hospital

We report a 68-year-old man with renal cell carcinoma in a horseshoe kidney. Abdominal computed tomography revealed a left renal tumor in a horseshoe kidney, and we carried out left radical nephrectomy. Histopathological diagnosis was renal cell carcinoma. Only 19 cases of renal cell carcinoma in a horseshoe kidney have been reported in Japan, and our case was the 20th.

(Acta Urol. Jpn. 38: 697-698, 1992)

Key words: Horseshoe kidney, Renal cell carcinoma

緒 言

馬蹄腎の発生頻度は、400 人に対し 1 人であり、比較的よく経験する先天性腎奇形である。しかし馬蹄腎に腎腫瘍が合併することは稀である。今回著者らは、馬蹄腎に合併した腎細胞癌の 1 例を経験したので、若干の文献的考察を加え報告する。

症 例

患者：68歳、男性

主訴：頻尿

家族歴・既往歴：特記すべきことなし

現病歴：1991年1月7日頸椎性脊髄症にて当院整形外科に入院。1月9日 ESR (血沈) の異常亢進、C-RP (C反応性蛋白) の異常高値、頻尿にて当科受診。1月11日腹部 CT (Fig. 1) にて馬蹄腎に合併した左

側腎腫瘍と診断され当科転科となった。

入院時現症：特記すべきことなし

入院時検査所見：ESR；1時間値 168 mm. 血液検査；血色素量 8.4 g/dl 以外正常。生化学検査；GPT 36 KU, ALP 39.3 KAU, γ -GTP 99 IU/l 以外正常。血清検査；CRP 11.8 mg/dl. 尿検査：異常なし。

入院後経過：1991年1月16日選択的左側腎動脈造影を施行し、左腎中下極に血管増生著明な腫瘍、馬蹄腎峡部を栄養する血管を認めた。術前画像診断にて、TNM 治療前臨床分類にて、T3N0M0, Robson の stage 分類にて stage II と診断し、1月30日左側根治的腎摘出術を施行した。

手術時所見：上腹部正中切開後、下行結腸をおこし後腹膜腔へ達した後、狭部を離断し左腎を摘出した。摘出腎は 340 g であった。

病理組織学的所見：renal cell carcinoma, alveolar type, clear cell subtype, grade 2, INF β , pT3 pV1apNO.

術後経過：経過は良好であったが8月23日の胸部X線写真にて、右下肺野に、3.5 cm \times 2.5 cm の転移巣を認めた。

考 察

馬蹄腎は400人に1人の割合で発生し、男女比は2:1であり、各年齢で発見される。95%が腎下極で融合しているが、一部は上極で融合している¹⁾。馬蹄腎峡部や異常血管による尿管の圧迫のため水腎症を合

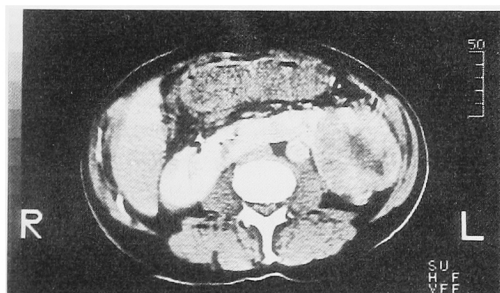


Fig. 1. Enhanced CT scan shows isthmus and left renal tumor.

併することが多く、上部尿路感染症、尿路結石が生じやすい。泌尿生殖器の奇形について、Boatman ら²⁾は尿道下裂、停留精巣が男子の4%に、双角子宮や膈中隔が女子の7%に、重複尿管が10%の症例に合併しており、異所性尿管瘤、VUR も認めることがあると報告している。また馬蹄腎の患者は中枢神経系、消化器系、心血管系の奇形も合併していることが多く、本症例も先天性水頭症を合併している。しかし神経学的異常、精神遅滞は認めない。

馬蹄腎に合併する悪性腫瘍の分類の報告では、腎細胞癌45%、腎盂腫瘍20%、Wilms 腫瘍28%、その他7%である。これに対して正常腎の場合腎細胞癌83%、腎盂腫瘍7.7%、Wilms 腫瘍5.6%、その他3%であり、正常腎に比較して馬蹄腎では腎盂腫瘍、Wilms 腫瘍の割合が多く、発生頻度も高率である²⁾。しかしBlackard ら⁴⁾は馬蹄腎に発生する悪性腫瘍全体の頻度は正常腎と比べて高くないであろうと述べている。また馬蹄腎に合併した腎細胞癌は稀であり、著者らが検索しえたかぎりでは、本症例は本邦20例目である⁵⁾。

森田ら⁶⁾によると本邦における画像診断法別の診断率は、馬蹄腎では尿路造影、CT にて100%、血管造影にて80%、腎シンチグラムにて37.5%、超音波検査にて25%である。腫瘍の存在診断では超音波検査、CT にて100%、血管造影にて93.3%、尿路造影にて86.7%、腎シンチグラムにて62.5%である。特にCT では左右腎実質下方の横断面での連続する実質像とし

て描画される馬蹄腎のみならず合併する腫瘍や2次的病変の診断も容易である。診断後は前述したように様々の合併症を合併する場合があるので注意深い精査と厳密な経過観察が必要である。

結 語

馬蹄腎に合併した腎細胞癌の1例につき報告した。本症例は本邦20例目と思われる。

文 献

- 1) 三品輝男・尿路性器の先天異常疾患。ベッドサイド泌尿器科学，診断・治療編。吉田 修編。第2版，pp. 184-186，南江堂，東京，1991
- 2) Boatman DL, Kolln CP and Flocks RH: Congenital anomalies associated with horseshoe kidney. J Urol **107**: 205-207, 1972
- 3) Smith-Behn J and Memo R: Malignancy in horseshoe kidney. South Med J **81**: 1451-1452, 1988
- 4) Blackard CE and Mellinger GT: Cancer in a horseshoe kidney. Arch Surg **97**: 616-627, 1968
- 5) 林 哲夫，福田博志，萩原 明，ほか：腎細胞癌に合併した馬蹄鉄腎の1例。泌尿紀要 **37**: 613-615, 1991
- 6) 森田 稔，熊谷みどり，熊谷明史，ほか：馬蹄鉄腎に合併した腎細胞癌の1例。臨放線 **35**: 1093-1096, 1990

(Received on September 6, 1991)
(Accepted on November 26, 1991)